

学校関係者評価 報告書

評価対象期間

2021年4月1日から2022年3月31日

2022年5月29日

学校法人 京都外国語大学

京都外国語専門学校

本校が行った自己点検評価結果について、学校に関係の深い方たちに評価いただくことを基本とするもので、結果として自己評価そのものの質を高め、改善につなげることを目的とします。

目的Ⅰ 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。

目的Ⅱ 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを実現する。

目的Ⅲ 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

具体的には、以下の4つの視点で評価をいただきたい。

- ① 学校経営の改革方針の内容が適切かどうか。
- ② 普段の学校の取り組みが「目指す学校像」を実現するためのものになっているかどうか。
- ③ 学校の自己評価が適切に行われているかどうか。
- ④ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。

【評価委員名簿】

以下のメンバーを評価員として、委嘱した。

氏 名	所 属	種別
太田垣 敏信	株式会社ライン特別顧問(人材教育)	関連業界関係者
江崎 健太郎	江崎器械株式会社代表取締役社長	卒業生
森 誠司	私立高等学校講師	教育に知見を有する者
濱寄 祐之	学校法人職員	教育に知見を有する者

事務局 河村 光雅(京都外国語専門学校 副校長)

稲生 豊(京都外国語専門学校 課長)

2021年度学校関係者評価委員会開催日

日時：2022年5月28日(土)10時00分～11時30分

場所：京都外国語専門学校 会議室

次第:

1. 開会のあいさつ
2. 委員紹介
3. 関係資料の説明及び検討・意見交換
4. 2021年度 学校関係者評価に向けての意見交換
5. まとめの報告 事務局
6. 閉会のあいさつ

関係資料

2021年度 京都外国語専門学校 学校案内

2021年度 京都外国語専門学校HP

2021年度 自己点検評価報告書

事業計画・事業報告

2021年度 春学期授業アンケート結果(9月)

2021年度 秋学期授業アンケート結果(2月)

基準項目ごとの学校関係者評価及び意見のまとめ

1. 教育理念・目標・育成人材像など

学校法人 京都外国語大学の建学の精神を受けて教育目標や育成人材像は明確である。また、ホームページ、募集要項及び学生便覧などを通して、在校生や入学希望者には、明確にメッセージとして伝わっていると思われるが、もっと積極的に育成する人材像は打ち出しても良いのではないか。

コロナ禍により大きく変化する国際情勢や国内状況に合わせて、社会から学校に求められる教育内容も変化していくと思うが、中期計画にもあるように「選ばれる専門学校」を目指して取り組んでほしい。

2. 学校運営

学校運営については、学校法人 京都外国語大学の各種規程に基づき運営されている。意思決定についても、教育の問題と経営の問題についても明確にされている。

法人内設置校間の連携については、募集段階での連携や高大専の教育内容の連携など、もう少し同一法人内校であるメリットを活用した工夫が必要ではないか。コロナ禍の影響も大きいですが、前年度に比べても後退しているように思われる。今後の取り組みに期待したい。

3. 教育活動

教育活動においては、コロナ禍での遠隔授業を余儀なくされ、教育の質の低下も心配されたが、これまで学園内で整備してきたICT基盤を生かし、WebツールとしてはMicrosoft Teamsを用いた遠隔授業、またそれらを担当する教員の技量アップのための講習会や情報交換会などを行い、教育改善が行えたことは評価できる。

学生の授業アンケートについては年2回(春・秋実施)しているが、それらの結果は開示されており、常勤教員については、評価制度にも反映されている。非常勤教員については、その結果をフィードバックして、問題点の改善を求めたり、積極的な運用が図られているようだ。

英米語学科は、TOEICなど定期的に試験を実施して、客観的に学生の伸長度を測っている。具体的にどれだけ伸長したかを入学希望者にも知らせることによって、学校の教育の質を知ってもらうことができると思うのでより積極的に広報すべきであろう。

また学生には、インターンシップやボランティアにも積極的に参加させて、語学を通して社会との接点を発見させる取り組みも増やしていくべきであろう。

2021年度の英米語学科の最後の学科行事(Language Festival)が、コロナ禍のため在校生や保護者の入場なしで実施したことは、せっかく準備してきた学生や指導してきた先生方にとっては残念だったと思う。2022年度は通常通り在校生や保護者

にも公開して開催し、2年間の学習成果を見せてほしい。

4. 学修成果

ここ数年、非常に高い就職率や編入合格率を保っていることは、担当している教員や職員が学生に寄り添って対応しているからだと思う。

今年は特に、コロナ禍で、空港関係や旅行、ホテル関係の求人が少なくなっていて、指導には苦労されたと思う。継続して学生達の夢を叶えてやってほしい。

5. 学生支援

学生の退学率は10%と以前と比べて低くはなっているが、他校と比較してみると高いように思われる。退学理由として、①進路変更(就職)、②体調不良、③人間関係、④学業不振、⑤経済的理由などが挙げられている。修学支援制度によって経済的理由によるものは減少傾向にあるが、対人関係や体調不良等の理由が増加してきている。今後の課題として、教職員が、対象となりそうな学生をいち早く察知し、合理的配慮に基づいた対応の仕方などについて専門家から学ぶような研修会を開いてはいかがだろうか？

18歳成人年齢制も施行されたが、扶養される立場の学生である以上、保護者との連携は必須であり強固な信頼関係を築いてほしい。

6. 教育環境

授業アンケートを通して、施設設備の要望なども把握しており、その都度予算申請から改善へと進んでいるようだ。

外国語を学ぶ上で、極めて貴重な体験となりうる海外留学は非常に重要視されるべきイベントではあるが、コロナ禍の影響を受けて海外セミナーを中止するなど、その場に応じた真に必要な事柄を取捨選択する危機管理体制は機能していると思われる。

防災に関する体制は、監督官庁に届け出ている書面上の役割分担にとどまらず、訓練・講習を実施して組織として実践的な能力を身につけ、防災意識の向上を図るべきである。

7. 学生の募集と受け入れ

アドミッションポリシーについてはホームページなどで示されており、見学会などを通して、学校の教育の進め方などは明確に伝えられている。しかしながら、今の高校生には、学校案内や媒体誌などから広報は難しいように思われるので、高校生が使っている媒体にも直接的に訴えるような広報が必要ではないだろうか。入学者数が減少したことも、上手に広報している専門学校と、本校との差が出たのではないだろうか。

入試については、面接と書類で総合評価しており選考は適正に実施されている。
学科により入学希望者数に差があるので、その解消に向けての取り組みが必要であろう。

8. 財務

監査法人による年2回の監査も実施されており、決算についても学校法人として情報公開は行われている。

9. 法令などの遵守

情報公開については、遅れていたようだが、修学支援の新制度の初年度申請時から、学校の基本情報の公開、自己評価結果の公開、学校関係者評価の実施・公開など、大きく前進している。

個人情報についても規程に基づき、適正に管理されている。

ハラスメントや個人情報の取り扱いについて、研修などを継続的に実施して、教職員への理解を深めさせた方が良い。

10. 社会貢献・地域貢献

ボランティア活動については、個人に資するところが大きいようだ。単位として認定できるようにはなっているので、学校としても積極的に情報収集し、学生に伝達して参加を促すようにして欲しい。

11. 国際交流

外国人留学生については、1学年の学生数の15%以内と内規で受け入れ人数を決めており、在籍管理ができる範囲での募集となっている。

生活面の指導についても、事務担当職員と教員が連携を取って対応しているので、適正な指導ができていると思われる。しかしながら、コロナ禍のために、2020年度より外国人留学生の入国が制限されている状態で、学生募集には苦戦したようだが、この状態はこの先1・2年は継続する覚悟が必要であると思う。

海外協定校に関して、中国語学科、韓国・朝鮮語学科については年々増加の傾向にあるが、英米語学科と東南アジア言語学科は、十分とは言い難い数値であるので、積極的に海外協定校を探して、学生の選択肢（セミナー実施や留学など）を増やすべきだ。